

冬

あっという間に、2017年から2018年に…。皆さまの2017年=できたことやりのこしたこと、2018年=これだけはやりたいことは何ですか？

2018年2月の内科アカデミーに今回も教育講演を頼まれました。若手のホープ山口先生（石川県）と永富先生（長崎県）の講演を続いた時間帯でGetできたので、休み時間もフル活用できます。発明研究会の皆さまのアイデア商品や作品もゆっくり展示できそうで今からワクワクしています。2月18日（日）13:15~15:00・4階・422号室に遊びに来てくださいね。 SAMI事務局



NEWS

「獣医学術奨励賞」を頂きました!! 中山正成（SAMI副会長・奈良県）

2017年11月初め、日本獣医師会から電話があり、「獣医学術奨励賞」を当方の田中宏院長の受賞が決定したという内容でした。スタッフ一同、拍手喝さいして大喜びしましたが、いたずら電話じゃないのか、と信じられない気持ちでした。そういえば、ノーベル賞の受賞決定は電話で連絡を取ると聞いたことがあるねと納得しました。

「獣医学術奨励賞」は、日本獣医師会雑誌2年間に掲載された論文の中から選出されます。私は、2001年から2005年まで日本獣医師会獣医学術賞選考委員を務めました。約30編の論文を読んで優劣をつけるのは大変な作業でした。今回の選考委員の方々にお礼を申し上げたいと思います。

選考委員を務めているとき、私の大学時代からの恩師の故小笠原成郎先生が「獣医学術功労賞」の候補に挙がった時は、他に2人の候補者がいましたが、必死で他の選考委員を説き伏せた懐かしい思い出があります。

日本獣医師会獣医学術賞には、三賞があります。以下のように、私達の病院は、今回で、三賞全て受賞することになります。これで、グランドスラム（麻雀では大満貫と言います）を達成しました。

◎1994受賞「獣医学術奨励賞」

犬ライム病の研究

◎2004年受賞「獣医学術学会賞」

犬の胸腰椎椎間板ヘルニアの脊柱管内における位置診断の検討—臨床症状、脊椎造影所見および手術所見との比較

◎2014年受賞「獣医学術功労賞」

犬猫の脊椎・脊髄疾患の診断・治療

◎今回（2018年）受賞「獣医学術奨励賞」

小型犬の頸部圧迫性脊髄症における動的病変の臨床学的特徴

日本獣医師会雑誌69（2016年4月号）に掲載された原著論文に対しての受賞です。2018年2月、別府での年次大会で表彰されます。

これらの研究は、全て日頃診ている個々の症例を診察、検査、治療、予後の観察など丁寧にまとめた結果です。仕事をしながら、学会発表、論文を書くと言うことは大変ですが、病気の理解、頭の整理、深く勉強することになります。論文として書くという事は、新しい発見につながります。発明と同列です。1本の学術論文は、1つの特許取得と同列に評価されます。

動物医療発明研究会の会員の皆様には、日々の診療に真剣に向き合っておられることと思います。皆様に申し上げたいことは、積極的に学会発表を行っていただきたいという事です。それには、診療記録は漏らさずきっちり記入すること。診断に至る経緯、治療の内容、予後の観察など注意深く整理していれば、“発表内容のひらめき”を得ることが出来ます。

非常に楽しい頭の体操です。

私は、これまで数々の学会発表、特許取得を行ってきました。69歳になった今もアイデア、ひらめきを考えることは大いなる楽しみの一つになっています。今後とも精進して参りたいと思います。



田中宏・中山獣医科病院院長（右）

リケッチア感染について (第26回SAMI総会セミナー)



うつのみやペットクリニック
浅井 洋子先生

近年、マダニウイルスによる重症患者の報道が目立つようになりました。

マダニウイルスは、マダニを介して直接人に移るものと考えられておりましたが、SFTS(重症熱血小板減少症候群)に罹患した猫に咬まれた人が感染し死亡する事例が世界ではじめて確認され、厚生労働省では今年の7月24日に全国都道府県および獣医療従事者等の専門家に向けての注意喚起の通達を実施致しました。国内初の患者が確認された2013年1月以降、西日本を中心に266人の患者が報告され、うち57人が死亡という致死率でありながらワクチンなどの特效薬がなく、対象療法のみという現実であります。

マダニが媒介する病気は、屋外で感染したり暴露の機会が多い野生動物やペット関連の従事者が罹患すると思われがちですが、実は比較的身近で誰にでも感染の機会のある病気のひとつと考えられるでしょう。私はリケッチア感染症に罹患しながら除外診断に時間を要したため治療が後でにまわり、最終的に感染症疑いというグレーゾーンになりました。初期症状は風邪と類似しており医療機関ではインフルエンザ検査を実施されます。また個々により症状は様々で頭痛、発熱、耳痛、肝機能障害、脳炎、髄膜炎、などですが、私の場合はCRP(急性炎症たんぱく反応)を含む血液検査や各種画像診断にて異常が認められなかったため、継続的な高熱や歩行困難状態にも当初は入院治療を実施されませんでした。乳幼児や高齢者の方が発症すると初期の検査や治療が遅れ、多臓器不全など重症化する恐れがあります。

日本大学板橋病院の荒島康友先生は、一般家庭のペットや野生動物でも症状を呈さずに保菌している場合があります、マダニの咬傷痕がなくても症状があれば積極的に医療機関を受診し検査を実施しましょう、と注意喚起されております。小学生の不登校や、思春期のひきこもり、社会人の慢性疲労症候群、中高年の不定愁訴なども感染のサインである場合があります。近くの医療機関で原因不明とされた場合は抗体検査や遺伝子診断の可能なセカンドオピニオンを積極的に受診いたしましょう。

～自分で守ろう！～

Q熱の怖い話・体験談



うつのみやペットクリニック
浅井洋子

総合病院の神経内科医の告知は、

残念ですが、診断は、、、
「不明熱」です。



当院の感染チームの見解では、
「あなたを入院させることは、できません。」



症例検討会

- プロフィール 48歳 女性
- ヒストリー
 - 現病歴: 5日前からの37~38度の発熱、
頭部のこわばり、背中への痛み、耳鳴り、胸の痛み
 - 既往歴: 前胸部の痛み、ホルターなど循環器疾患
のスクリーニング検査は異常なし
 - 予防歴: 各種予防接種済み
 - 生活環境: 室内外、動物との濃厚接触あり
 - 身体検査所見: 慎重157cm BCS=3

ホームドクターから総合病院へ

- 風邪の症状ですね
感冒薬を処方しましょう 外来1日目(発症5日目)
インフルエンザ検査 AB共に(-)
- 頸の曲がり方
CT検査を受けてください 外来2日目(発症6日目)

患者: 何らかのウイルス感染症だともおいます、
タミフルとか処方してください!



医者: それは出来ません。緊急総合病院でCT検査です。

臨床検査所見

- CBC 正常 WBC:N CRP:0.0以下
- 血液化学所見 正常
- 画像診断 レントゲン検査:N
造影CT検査:N
- 追加検査の検討
MRI検査、ほか
- 患者
発症からの経過が長い
発熱による消耗
起立困難
一刻も早い原因究明と治療を希望



何日も眠れず身体が痛い、苦しい、助けてください!

- 主治医
血液検査の異常値が認められず
第4胸椎のわずかな影について
↓
整形外科との連携で検査を進める

不明熱です。あなたを入院させることは、できません。

鑑別診断

キーワード: 動物との接触到起因するもの

- サイトカブノファーガ
- フォーラーナグレリア
- マイクロネーマ・デレトリックス
(ハリセファロプス・ジンジバリス)
- オウム病
- Q熱



カプノサイトファーガ 2



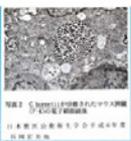
原因 Flavobacteriaceae科 カプノサイトファーガ属 細菌
 症状 発熱、倦怠感、腹痛、吐き気、頭痛
 髄膜炎、敗血症、DIC、脾臓摘出者、基礎疾患あり
 感染経路 イス、ネコの咬傷・掻傷
 診断 体液培養、単離、同定。またはPCR。
 治療 β-ラクタマーゼを産生する耐性菌もあり、ペニシリンを含むβ-ラクタム系抗生物質を使用する場合には、クラバン酸やスルバクタム等のβ-ラクタマーゼ阻害剤との合剤を用いる
 問題点 重症化した場合、敗血症になった方の約30%が、髄膜炎になった方の約5%が亡くなるとされています。

オウム病



原因:C. psittaciの吸入、口移しの給餌や噛まれ
 症状:インフルエンザ様の症状、高熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛、肝障害、肺炎。特に初期治療が不適切でARDSや重症肺炎に至った場合、さらに髄膜炎、多臓器障害、ショック症状を呈し致死的な経過をとることもある。
 胸部理学所見は、オウム病に特有な所見はないとされる。検査所見では白血球数は正常で、CRPや赤沈は亢進する。中等度の肝機能異常をきたすことが多い。
 治療: 1)ミノサイクリン(100mg)2錠 分2朝夕
 2)クラリスロマイシン(200mg)2錠 分2朝夕
 小児や妊婦では、テトラサイクリン系薬の歯牙や骨への沈着を考慮して、エリスロマイシンの点滴静注やニューマクロライド薬の内服などを行う。

Q熱



感染: コクシエラ科コクシエラ属のCoxiella burnetii
 症状: 急性Q熱ではインフルエンザ様高熱、頭痛、筋肉痛、全身倦怠感、眼球後部痛、肺炎、肝炎。
 検査: 分離、同定、PCR法、間接蛍光抗体法:抗体の検出(単一血清でIgM抗体64倍以上若しくはIgG抗体256倍以上、又はペア血清による抗体陽転若しくは抗体価の有意の上昇)
 治療: テトラサイクリン系の抗菌薬が第一選択薬であり、クロラムフェニコールも有効
 1割程度が慢性Q熱に移行するとされ、弁膜症などの基礎疾患を持つ例で心内膜炎を起こすと難治性となり、致死率が高くなる

感染源はおもに家畜や愛玩動物であるが、自然界では多くの動物やダニが保菌しており、感染源となりうる。感染動物は症状がない(不顕性感染)



C. burnetiiの自然環境における生態

日本の家畜・野生動物における抗体保有率



小児～大人まで年齢幅広い

急性:潜伏期:14～26日(感染量による)。
 感染者の約50%が不顕性感染で、一過性の発熱、軽度呼吸器症状も多い。本邦における小児の異型肺炎の37%をしめる。程度と期間は様々であるが、インフルエンザ様の症状を呈す。本邦・海外ともに、市中肺炎の4～6位に入る。
 症状:発熱、激しい頭痛、胸痛、筋肉痛、関節痛、発汗、悪寒、食欲不振、嘔吐、乾性咳嗽、気管支炎、肺炎、肝炎、髄膜炎等を起こす。約80%で何らかの肝機能異常。稀に皮膚の発疹、髄膜炎、眼神経炎、甲状腺炎等。
 予後:一般に良好、12日程度で解熱回復。
 治療が遅れると死亡することがある。
 慢性:急性後の回復期から1～2%が移行し、死亡率上昇。他に慢性肝炎、心筋炎、心外膜炎等。

患者の自立



病気を診断できる医者や医療機関を探す!

セカンドオピニオンの重要性
 専門性に特化した医療施設



不明熱に対して 一般的な対象療法により、幸運にも死亡を逃れても。。

○ 入院時 6歳幼児 → 退院時 0歳乳児の知能

謝辞

この様な機会を与えていただきました、

発明研究会会員の皆さま

日本大学板橋病院 荒島康友先生

心より感謝申し上げます。



ニャンコのつぶやき

どうもありがとう
 ワーイ猫の草
 ムシヤムシヤムシヤ
 毛玉も一緒にゲツゲツ
 アー、すつきりした



ゴージャス 12

佐藤犬猫病院(三郷市)佐藤剛作

ワンコのつぶやき

幸せだな
 ご主人様の膝の上
 ほんのチョットの
 昼休み
 もう少しもう少し



【新入会員・自己紹介】



すみれ医療株式会社
http://www.sumire-medical.co.jp

内田 玉男

山梨県甲府市 生まれ
東京都八王子市在住 (3人家族)
趣味: サッカー・ゴルフ・水泳・
スキー・ドライブ

◎自慢出来そうなお話し:

①仕事: 前職 (医療機器営業) にて営業目標金額7年連続でクリア ②スキー: 石打丸山スキー場 2級 ③ゴルフ: ベストスコア78 ④ME2種取得: 医療機器販売の営業としては必要な条件。⑤超音波画像診断装置のスキルが出来ます。特に循環器系を長く経験しています。

◎**性格:** 温厚と思われる事が多いですが、チョット熱くなる事も有ります。

◎**趣味:** ゴルフクラブ探し (買いませんが…)・麻雀 (友達麻雀)・スパランドめぐり (ポンコツ体の修復)

◎その他:

*病院に対し外資系医療機器 (超音波画像診断装置・ベッドサイドモニタシステム・MRI・CT) の販売営業を25年経験しております。

*特徴的には転勤経験が7回、勤務地は東京から始まり、横浜市・千葉市・江東区・横浜市・大阪市・さいたま市・札幌市・東京へ戻り退職。2度転職後、現在の会社で営業をしております。

*特に超音波画像診断装置につきましては、原理・検査手技・検査部位毎 (循環器・腹部・整形領域等) の検査についてのサポートをさせて頂く事が可能かと考えております。

また、個人的なお話しとしては中学から始めたサッカーを前職時代まで約25年継続していました。大した実績は有りませんが、社会人になってからは会社の所属していた“東京都社会人リーグ”において、2部リーグ (当時4部リーグ制) での実戦経験があります。

以上、何卒 よろしくお願い致します。



Littlemark

リトルマーク
株式会社

〒192-0153
東京都八王子市西寺方町24-1
TEL: 042-659-1344
FAX: 042-659-1354
mail: info@little-mark.com
HP: https://little-mark.com

☆事業内容

ペットフード、ペットサプリメントの開発、製造、販売。
現在主力商品「犬用サプリメント・いぬのちから」を販売しております。(主に足腰・関節の不調の改善、毛艶を良くする、免疫力の向上、術後の回復を早くするなどを目的とし、子犬からシニア犬までをサポートします。)

☆発明研究会に入ったきっかけ

設立間もない会社ですので、より良い商品開発のために動物・動物医療に関するいろいろな事を勉強させていただき、情報交換などできればと思います。

☆研究会の皆様へ伝えたいこと

商品の改良、開発のため、皆様のお声をお聞かせいただければと思います。



新入会員

掛端 健士先生 / かけはた動物病院 (北斗市) 命というものを一緒に考えていくことが私の仕事です。
内田 玉男さま / すみれ医療 (北葛西) 花言葉=誠実がモットー。泌尿器科がメインの医療機器販売。
リトルマーク株式会社さま (八王子) ペットフード、ペットサプリメントの開発、製造、販売。

動物医療発明研究会のホームページ。会員病院の登録もできます。
hp@ispecial.co.jp



会員の病院・施設名、郵便番号住所、TEL&FAXとホームページアドレスを掲載します。ご希望の場合は、「SAMI-HP掲載希望」と明記して、データをメールにて、上記アドレスまでお送りください。
(運営受託: 株式会社アイ・スペシャル)



動物医療発明研究会事務局ではお役立ちのアイデアやエピソードを随時募集しています。メール、FAX、郵便でも受け付けていますのでお気軽にお寄せください。

SAMI NEWS 48号 発行日: 2017年12月吉日

発行所: 動物医療発明研究会事務局

発行人: 会長 清水 邦一 / 編集人 ノーマデザイン 野間 忠博

事務局: 230-0061 横浜市鶴見区佃野町3-3 清水動物病院内

メール: sah@vet.ne.jp

FAX: 045-583-3594 (電話: 045-583-3738)